

# アベリスツイス滞在記

今回で14回目となる「アベリスツイス高校生派遣事業」。高校生たちは現地でも多くの方々と出会い、ウェールズ・アベリスツイスの文化や歴史を学び“友好の絆”を深めることができました。

## ● 主な行程

- 11/6 与謝野町出発
- 11/7 アベリスツイス到着、ホストファミリーとの顔合わせ
- 11/8 国立図書館訪問
- 11/9 アベリスツイス大学訪問、歓迎レセプション参加
- 11/10 マハンスレス訪問、スレート鉱山跡見学
- 11/11 ホストファミリーと交流（終日）
- 11/12 戦没者追悼式典参加  
故フランク・エバンスさんのお墓参り
- 11/13 アベリスツイスの高校で交流
- 11/14 国立ウールミュージアム訪問
- 11/15 アベリスツイス出発 ※ ロンドン泊
- 11/17 与謝野町到着



① 村田さんとホストファミリーのウィロー（左）と妹のエリー（右） ② 西村さんとホストファミリーのジョン（中央）とルイス（右） ③ 根本さんとホストファミリーのウィロー（中央）とタビー（右） ④ 堀江さんとホストファミリーのジョシュ（左）と弟のトレパー（中央） ⑤ 尾関さんとホストファミリーのメアリー（左）とグウェノー（右） ⑥ 歓迎レセプションであいさつをする堀江さん ⑦ 太田さんとホストファミリーのエレン（左）とローサ（右） ⑧ 井崎さんとホストファミリーのメーガン（左）とカーリー（左から2番目）とメーガン（右） ⑨ 森下さんとホストファミリーのマチルダ（左）と母のジュリア（右）



① アベリスツイス大学で模擬授業を体験  
② 戦没者追悼式典のパレードに参加

英国各地では、11月の第2日曜日に「戦没者追悼式典」が行われており、高校生たちはアベリスツイスで開催された式典に参加することができました。参加者はポピーの造花を身に付けて、式典では代表者らによりポピーの花輪が慰霊碑に供えられました。高校生たちにとって、改めて戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶ機会となりました。

## 戦没者追悼式典に参加

英国各地では、11月の第2日曜日に「戦没者追悼式典」が行われており、高校生たちはアベリスツイスで開催された式典に参加することができました。参加者はポピーの造花を身に付けて、式典では代表者らによりポピーの花輪が慰霊碑に供えられました。高校生たちにとって、改めて戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶ機会となりました。

## アベリスツイスってどこ？

イギリスのロンドンから西へ列車で5時間。カーディガン湾に面した人口約1万人の町です。主な産業は農業（牧畜）や観光業で、アベリスツイス大学、国立図書館など文教施設があることから学生が多く、世界各国からの留学生も多いところです。美しい海岸が印象的な町で、観光地としても人気が高く、夏は避暑を楽しむ観光客でにぎわいます。ウェールズの歴史と文化を誇りにし、ウェールズ語を多くの人が話し、町のサインも英語とウェールズ語が併記してあります。



尾関 真帆  
福知山高校1年

## アベリスツイスで築いた友情と理解

アベリスツイスでの生活は、素晴らしい経験になりました。現地の方々との交流から、互いの文化や習慣など深い相互理解ができ、与謝野町とアベリスツイスをつなぐ架け橋の一員になれたと思います。

この事業の原点となったフランク・エバンスさんの思いを受け、高校生という若い年代が与謝野町の代表としてアベリスツイスに行ったということが無駄なものにせず、事業を通して得た平和への思いを必ず後の世代に語り継いでいかなければならないと思っています。自身も日本とは異なる文化や習慣に触れることで新しく視野が広がり、考え方や価値観を見つめ直すことができました。

私は今でも SNS を通じてホストファミリーと交流をしています。この交流を途切れさせることなく、ずっと続けていけたらいいと思います。



村田 亜美  
宮津天橋高校  
加悦谷字舎2年

## 外国で学んだ人々の平和への想い

この事業に参加して良かったです。ホストファミリーと顔合わせをした日は緊張と不安でいっぱいでしたが、ホストファミリーに加え現地の方々の明るさや優しさに包まれ、とても充実した日々を過ごすことができました。

一番印象に残っているのは、戦没者追悼記念日のパレードに参加したことです。教会でのお祈りや戦争で亡くなられた方にお花を供えたりと、一年で最も大切な日に参加することができました。この交流が始まったきっかけも、戦争捕虜で連れてこられたフランク・エバンスさんが終戦後、旧加悦町を訪問されたことでした。今回、外国での戦没者追悼記念式典に参加できたことはとても貴重なものでした。二度と戦争で多くの方が亡くなられるようなことは起きてほしくないと心から思いました。本当に貴重な時間を過ごすことができました。



井崎 李美  
宮津天橋高校  
加悦谷字舎2年

## アベリスツイスが気づかせてくれた平和

以前にアベリスツイスの高校生にホストファミリーをしたことがあり、アベリスツイスが素晴らしい街だと聞いて、高校生になったら派遣事業に参加し、自分の目で見てみたいと思ったのが、この事業に興味を持ったきっかけです。

今回の事業で学んだことは、「友だちになるのに国や性別、年齢は関係ない」ということです。アベリスツイスではさまざまな人と出会いました。例えば、ホストファミリーや学校の先生、アベリスツイス大学に通う大学生です。初めて出会う人たちがばかりで、国や言語、年齢、性別も違うけど、一生忘れない友だちになれました。

フランク・エバンスさんがつないでくださったアベリスツイスとの絆がずっと続いていくよう、多くの人にこの交流のことを伝えたいです。この事業に協力していただいた皆さん、本当にありがとうございました。